

平成13年度事業計画
(自平成13年3月1日 至平成14年2月28日)

社団法人 溶接学会

平成13年度において、本会は溶接研究の拡充振興及び溶接教育の推進強化を目標として下記の事業を行う。

1. 全国大会

1.1 春季全国大会

平成13年4月18日～20日 三省堂文化会館
研究発表講演(138件)、特別講演「ゼロミッションとLCA」
シンポジウム「レーザによる構造化・補修技術の展望-21世紀の基盤技術確立への課題」
フォーラム「ソルダリングの鉛フリー化はどう進むべきか？」
若手会員イブニングフォーラム「溶接・接合研究の各種情報ソース - 最近の国際鍵、ジャーナル等の紹介」
オーガナイズドセッション「摩擦攪拌接合(FSW)の現状と将来」

1.2 秋季全国大会

平成13年10月10日～12日 ホテル東日本盛岡(盛岡市)
研究発表講演、特別講演、溶接学会論文賞受賞講演
フォーラム、若手会員のためのフォーラム、技術セッション、ワークショップ、カタログ展示・ビデオ上映

2. 講習会

2.1 平成13年度溶接工学夏季大学(第50回)「材料構造物の高機能化に対する溶接・接合技術の応用」

会期 平成13年7月17日～19日
会場 大阪科学技術センター(大阪市)

2.2 第39回工業高校教員のための溶接工学夏期講座

会期 平成13年8月
会場 東海地区

2.3 平成13年度溶接技術基礎講座(第29回)

会期 平成13年6月14日～15日
会場 溶接学会会議室

2.4 溶接技術実用講座「建築鉄骨の基本的な溶接技術」(第5回)(支部と共催)

四国支部
会期：平成13年3月9日
会場：高知県工業技術センター

3. 刊 行

3.1 溶接学会誌 自70巻2号(平成13年3月号)至71巻1号(平成14年1月号)8冊
3.2 溶接学会論文集 第19巻2号(平成13年5月)～第20巻1号(平成14年2月)4冊

3.3 全国大会講演概要集(第68集及び第69集)2冊

3.4 溶接学会技術資料を随時刊行する。

3.5 平成13年度溶接工学夏季大学教材「材料構造物の高機能化に対する溶接・接合技術の応用」

3.6 溶接用語集

3.7 Mate 2002 8th Symposium on "Microjoining and Assembly Technology in Electronics"

3.8 WES特別級テキスト

3.9 平成12・13年度名簿

3.10 溶接・接合便覧改訂版

4. 第69回通常総会

開催期日 平成13年4月19日

開催場所 三省堂文化会館

- 議 題
- 1) 平成12年度事業報告承認の件
 - 2) " 収支決算報告承認の件
 - 3) 監査報告
 - 4) 溶接学会定款改訂の件
 - 5) 平成13年度事業計画承認の件
 - 6) " 収支予算承認の件
 - 7) 名誉員推薦の件
 - 8) 特別員推薦の件
 - 9) 推薦会員推薦の件
 - 10) 表彰

5. 評議員会

開催期日 平成13年4月18日

開催場所 三省堂文化会館

- 議 題
- 1) 平成12年度事業報告案の件
 - 2) " 収支決算案の件
 - 3) 監査報告
 - 4) 溶接学会定款改訂の件
 - 5) 溶接学会規則改定の件
 - 6) 平成13年度事業計画承認の件
 - 7) " 収支予算承認の件

6. 役員会

6.1 理事会

定例理事会を7回(3,4,5,10,12,1,2,3各月)開催(6,7,8,9,11各月は休会)及び必要あるとき開催

6.2 各業務担当理事会

必要あるとき随時開催

6.3 支部長会議及び支部幹事会

必要あるとき随時開催

7. 業務活動

7.1 企画委員会

平成12年度に引き続き、学会長期展望の具体化について検討し、特に、溶接学会の研究活動基盤強化、財政基盤強化、75周年記念キャンペーン、学会事務合理化、溶接情報発信基地としての基盤強化、溶接教育体系の国際化対応への具体的対策などを検討し、また、賛助員向けアンケートの調査結果による学会への期待と要望を反映すべく具体策を検討し、短期行動計画の具体化に向けて理事会に提案し、具体化を図る。

7.2 業務活動委員長会議

会務運営を円滑にして会員サービスを向上させるため、各委員会間の連携を密にして効率のよい活動の展開を図る。

7.3 論文査読・審査委員会

投稿論文の査読並びに審査を行う。

7.4 全国大会運営委員会

全国大会の企画・運営について審議決定及び実施する。

講演概要集第68集及び第69集を発行する。

春季・秋季両大会において有識者による特別講演を実施する。

オーガナイズドセッションを実施する。

7.5 編集委員会

溶接学会誌、溶接学会論文集の編集及び刊行を行う。

7.6 国際交流委員会

第7回国際シンポジウムの本年開催を支援する。

必要ある時随時開催し、国際交流事業の企画立案及び実行態勢の整備を行う。

日米協定及び日韓協定に基づく活動（日米シンポジウムを含む）を推進する。

7.7 科学研究費委員会

必要あるとき随時開催し、文部科学省科学研究費に係る問題の検討及び処理を行う。

7.8 溶接用語委員会

(1) JIW 第6委員会と合同で4回の委員会を開催し、IIW 第VI委員会の活動を支援する。

(2) 溶接用語集（和英対訳）を刊行する。

(3) JIS 溶接用語改訂に関し、日本溶接協会規格委員会に協力する。

7.9 文献資料委員会

(1) JIW 情報委員会と協力し、必要に応じて委員会を開催する。

(2) IIW - International Documentation Centerに対し、国内溶接関係文献アブストラクト交換が再開された場合には、送付する。

(3) 送付アブストラクト及び各Centerから受領したアブストラクトを活用し、会員サービスを目的とした企画を検討する。

(4) IIW 情報委員会の活動に協力する。

(5) 学会所有の図書、資料を整理して有効利用のための検討を行う。

(6) その他文献活動を通じて国内及び諸外国との交流を図る。

7.10 溶接教育委員会

(1) 溶接に関する視聴覚教材の作製を行う。

(2) 教材の所在調査及びその利用について具体策を実施する。

(3) 講座・講習会を企画立案し実施する。

1) 平成13年度溶接工学夏季大学（前掲）

2) 平成13年度溶接技術基礎講座（前掲）

3) 第39回工高教員のための溶接工学夏期講座（前掲）

4) 溶接・接合技術セミナー（前掲）

5) 溶接技術実用講座（支部と共催）（前掲）

6) 新規企画講習会、セミナーなど

(4) IIW 第XIV、第VII委員会と連絡し、溶接教育に関する国際活動に参加する。

(5) 国際級（IIW）対応技術者向け教育システムのあり方検討ワーキング・グループ（IWEWG）が活動する。

(6) WES特別級テキストを作成する。

(7) 日本技術者教育認定機構（JABEE）に協力する。

7.11 財務強化委員会

広告業務を行い、資料頒布事業について検討する。

8. 若手会員の会（共催：（財）溶接接合工学会）

8.1 若手会員の会運営委員会

若手会員のネットワークを強化するとともに、学会および当会の活動に対する積極的な参加の促進を目的として、魅力ある各種イベント・事業を企画・実施する。

8.2 イベント

(1) 全国大会において若手会員のためのフォーラムを行う。

「イブニングフォーラム」という名称とし、全国大会の講演と重複する時間を避け、夕刻からの開催とする。内容は溶接・接合の技術的なものにこだわらず、若手技術者・研究者の関心が高いと思われるものをトピックスとして取り上げ、数名の講師による講演と質疑応答という形式とする。

また、フォーラム会場で飲み物などをサービスし、参加者各位の懇親をはかれる場を提供する。

・春季全国大会フォーラム

主題：溶接・接合研究の各種情報ソース

最近の国際会議，ジャーナル等の紹介

日時：平成13年4月19日（木）17:00～18:30

場所：(株)三省堂文化会館（春季全国大会開催会場）

・秋季全国大会フォーラム

内容未定

(2) セミナー，勉強会等を開催し，若手会員の活動を支援する。

(3) 若手会員間における学会へのニーズ，期待を把握し，溶接学会のあるべき姿の提言を行う。

8.3 情報交換および広報

(1) 溶接学会誌「若手会員の会 自由編集のページ」に連載記事，活動報告等を掲載する。

(2) ホームページに活動報告，研究室・研究所紹介等を掲載する。

(3) メーリングリスト（E-mail）による情報交換を促進する。

9. 研究活動

9.1 研究推進部会

(1) 随時開催し、各研究委員会の活動状況の把握及び調整並びに特別研究会の設置についての起案・規模策定及び理事会への答申等を行う。

(2) アドホック研究会「設計・生産システムにおける溶接・接合情報の生成・利用手法に関する基礎研究（Phase ）が発足する。

(3) 特別研究会「建築鉄骨」（仮題）が発足する。

(4) アドホック研究会「ダメージメカニクスによる溶接継手の破壊解析」が成果報告をする。

本研究会の活動情報を会員諸氏に還元すべく、ダメージメカニクスに関する文献レビュー集の作成を予定している。

(5) 春季全国大会においてフォーラム(マイクロ接合研究委員会)を開催する。(前掲)

(6) 秋季全国大会においてフォーラム(界面接合研究委員会)を開催する。(前掲)

9.2 溶接構造研究委員会

(1) 開催回数 年4回

(2) 会 期 1回の会期は原則として1日又は2日とする。

(3) 開催期、開催地及び内容

| 会合名 | 開催期 | 開催地 | 内 容 |
|-------|-----|-----|-----------------------------------|
| 第148回 | 3月 | 東京 | 研究報告5～6件（日本造船学会構造・材料研究委員会との合同委員会） |
| 第149回 | 6月 | 大阪 | 研究報告5～6件 |
| 第150回 | 9月 | 九州 | 〃 |
| 第151回 | 1月 | 大阪 | 〃 |

9.3 溶接法研究委員会

(1) 開催回数 年4回

(2) 見 学 地方開催時及び随時

(3) 会 期 1回の会期は原則として2日とする。

(4) 開催期、開催地及び内容

- (1) 開催回数 年 4 回
 (2) 会 期 1 回の会期は 1 日とする。
 (3) 開催期、開催地及び内容

| 会合名 | 開催期 | 開催地 | 内 容 |
|------------------------------|--------------------------|--------------------------|-------------------------------------|
| 第53回 第54回 第55回 第56回 | 6 月 9 月 11月 1 月 | 東 京 大 阪 地 方 東 京 | 講演・研究報告 4 ～ 5 件 " " ,見学会 " |

JIW 第 3 委員会などと協力して国際的研究活動を行う。

他の研究委員会、他学協会と協力して活動する。

WG 活動を行う。

9.8 溶接アーク物理研究委員会

- (1) 開催回数 年 4 回
 (2) 会 期 1 回の会期は 1 日又は 2 日とする。
 (3) 開催期、開催地及び内容

| 会合名 | 開催期 | 開催地 | 内 容 |
|----------------------------------|--------------------------|--------------------------|---|
| 第142回 第143回 第144回 第145回 | 5 月 7 月 10月 1 月 | 東 京 大 阪 地 方 東 京 | 年度を通じ溶接現象に関する事実と法則の探求と溶接機構の解明について研究討論を行う。 |

JIW 第 212委員会と協力して国際的研究活動を行う。

9.9 マイクロ接合研究委員会

- (1) 開催回数 年 4 回
 (2) 会 期 1 回の会期は原則として 1 日とする。
 (3) 開催期、開催地及び内容

| 会合名 | 開催期 | 開催地 | 内 容 |
|------------------------------|--------------------------|--------------------------|--|
| 第63回 第64回 第65回 第66回 | 4 月 5 月 9 月 12月 | 東 京 東 京 東 京 東 京 | 春期全国大会フォーラム 講演，研究発表 4 ～ 7 件 " " |

- (4) ソルダリング分科会を開催する。

| 会合名 | 開催期 | 開催地 | 内 容 |
|--------------|------------|------------|-------------------|
| 第31回 第32回 | 7 月 10月 | 東 京 東 京 | 単独開催，テーマ設定方式 " |

- (5) Mate2002 シンポジウムを開催する。

- (6) 研究会活動を行う。

- (7) JIW のマイクロ接合委員会と協力して国際的研究活動(IIW等)を行う。

9.10 界面接合研究委員会

- (1) 開催回数 年 3 回

(2) 会 期 1 回の会期は 1 日とする。

(3) 開催期、開催地及び内容

| 会合名 | 開催期 | 開催地 | 内 容 |
|------|-----|-----|-------------------------|
| 第57回 | 5 月 | 東 京 | 特別講演 1 件 , 研究発表 4 ~ 5 件 |
| 第58回 | 9 月 | 東 京 | ” ” |
| 第59回 | 1 月 | 東 京 | ” ” |

JIW 第 1 委員会などと協力して国際的研究活動を行う。

10. 国内活動

10.1 日本学術会議接合工学専門委員会、同金属工学研究連絡委員会、同材料工学研究連絡委員会、造船学研究連絡委員会、構造工学研究連絡委員会、生産学術連合会、電子SI会議、日本技術者教育認定機構、日本工学会、日本溶接協会、日本非破壊検査協会、その他関係学協会との協力態勢を積極的に樹立し本会の目的達成を図る。

10.2 各政府機関に対して行政協力を積極的に行う。

10.3 支部活動を活発に行う。

11. 国際活動

11.1 JIWの活動を支援し、IIW の活動を通じて溶接に関する国際活動を行う。

11.2 第 7 回国際シンポジウムの本年開催を実施する。

11.3 各国学協会と各種情報、機関誌等を交換して積極的に交流を図る。

11.4 会員による海外視察の立案、国外からの来訪者による特別講演の実施、訪日外国人の国内視察斡旋などにより研究及び経験の交流を図る。

11.5 米国溶接協会(AWS) 及び大韓熔接学会(KWS)との協力協定に基づき二国間交流活動を推進する。